

薬剤師

薬と公衆衛生のエキスパート

現在の担当業務は

医薬品や医療機器の許認可に関する業務をはじめ、災害時における医薬品の供給やジェネリック医薬品の使用促進など、幅広い分野を担当しています。具体的には、法律や制度に基づき、医薬品等の事業者への指導・助言を行うほか、緊急時対応に備えた訓練の実施や、医療費適正化へ向けたジェネリック医薬品の啓発活動にも取り組んでいます。医薬品等が製造されてから患者さんの手に渡るまでの一連の流れに関わることができ、やりがいの感じられる仕事です。

県職員を選んだ理由は

地元に戻り医療を通じて地域に貢献したいと考えたことに加え、行政の立場から医療全体を支える仕事に魅力を感じ、大学で学んだ薬学の知識を、県民の健康と安心につながる形で生かしたいと考えて、山形県職員を志望しました。

県職員になって良かったこと、感じたギャップは

担当業務の一環として、製造所への立ち入りや適切な指導を行うための研修・出張が多くあります。各都道府県の職員と一緒に研修を受ける機会もあり、東北に限らず全国とのつながりを感じながら、広い視野で業務に取り組める点が魅力だと感じています。



デスクワーク中



立ち入りの準備

県職員に興味がある方へメッセージを

県職員薬剤師は、行政薬剤師として医薬品等の製造から、県立病院の病院薬剤師として患者さんのもとに届くまでの一連の流れに関わり、薬剤師として非常に幅広く医療を支えるやりがいのある仕事です。制度や仕組みの側面から医療を支える一員として、皆さんと一緒に働ける日を楽しみにしています。



休日の様子（スキー）



芦野 雅浩
健康福祉部健康福祉企画課
(令和6年度採用)

ある1日の流れ



8:30

業務開始、メール確認

9:00

資料確認・書類作成

11:00

打ち合わせ

12:00

休憩（お昼は県庁食堂でランチ）

13:00

事業者対応・相談対応

16:30

研修・調査準備、業務整理

17:15

業務終了